

潮流



自社商品も「働き方改革」

〜変わり続ける事で実現したい、変わらない夢〜

朝日産業株式会社

代表取締役社長

辻本 周平

名古屋市熱田区にある弊社は創業以来、まずは戦後の経済成長を支えた繊維業界で、紡績機械部品の製造・販売に注力してきた。その後、繊維関連とは別に、当時の小売店に欠かせなかった台秤を仕入れて販売したことをきっかけに、包装機器や捕虫器・殺虫器といった業務用機器の販売にシフトチェンジ。仕入商材のみならず、徐々に自社製造する商品のラインナップも増やし、平成後期には、日本の高齢化を考慮し、介護・ヘルスケア用品としての尿尿器を独自に開発。その結果、繊維機器、包装・衛生機器、ヘルスケア用品の3事業を柱とし

開会式で、普段あまり耳にする機会のない国々の選手団が、誇らしげに行進する様子を見る事が個人的にとても好きなのだが、弊社の商品を通じて世界の人々を笑顔にする「小さな世界平和」を積み重ねていく事が、私の生涯にわたる夢となっている。コロナ禍を経てもなお、中小企業としてさまざまな変化の波にさらされてきた。弊社では従業員のみなならず、自社商品が「働き方（使い方）改革」を起こした事例があったので、以下に紹介したい。弊社が製造する超音波溶着器「キュッパ」シリーズは、超音波の振動により素材自体を溶解させる

る葬儀屋さんからのメール。「マスクを作るために生まれたマシンだ」「日本の危機を救えるのは御社の機器です」「日本を宜しく」：まるで背筋が伸びる思いをした。もともとプラスチックに限らず不織布等の化学繊維の溶着も可能である事はアピールしていたものの、思うように周知が進んでいなかった所に、突然のブーム到来。同時期、マスク着用の習慣が無かった欧米からも、一時的に「キュッパ」の注文が殺到したのである。これに気づきを得た弊社は、新市場開拓の動きを加速。化学繊維であるリボンやフェルトを使うクラフトに向いているのではないかと考え、「針や接着剤を使わない新しいクラフト」として2021年から販促を開始。女性社員が中心となって朝日産業クラフト部を立ち上げ、ハンドクラフトフェア（名古屋市）にも出展。SNSでキュッパを使ったクラフトアイデアの提案をしながら、ワークショップイベントにリボン講師と共同参加している。

て、現在に至る。

海外への拡販も進み、現在の販売実績国は世界75カ国を数える。先述の3事業に分類される商品の他に海外市場で広がりを見せているのが、「骨抜き達人Ⅲ」や、電動うろこ取り器「タスケール」といった水産加工機器。2023年に入ってから新たなにスウェーデン、リトアニア、キプロスといった国々へと新たに販路を拡大した。売上としては少額ではあるものの、遠く離れた国の人々が、弊社の商品を求めて喜んでいただける事に対して、私はこの上ない喜びを感じる。オリンピック等の世界大会の

特性を利用して主にプラスチックの溶着に使われており、これまでスーパーやお持ち帰り店でのフードパックの溶着に20年以上ご利用いただいていた。しかしながら近年、包装資材類の脱プラスチックといった動きもあり、新たな市場の開拓を模索してきた。コロナ禍の初期、マスクが一時的に市場から消えた。自家製の布マスクや、100円ショップで買える不織布とゴムひもを使った「疑似マスク」の着用を迫られた頃、弊社の超音波溶着器に突然スポットが当たったのである。忘れもしないのが、ご近所に自作マスクを配り回ったという、九州の離島にあ

さらには2022年にフラワートライアルジャパン（長野県茅野市）に初出展し、フルーツ農家でのマルチ掛け作業、園芸ポットのラベル溶着等にも手応えを掴み、屋外での長時間作業も対応可能な「バッテリーキュッパ」をこのほど発売開始した。周囲の環境は絶えず変化していく。変えずにいたいのは、「小さな世界平和」を積み重ねていくという生涯にわたる夢。それを実現するための手段は日々試行錯誤を繰り返し、これからも誰かにとっての暗闇に射し込む一筋の光、すなわち朝日のようなサードビスを産む業（わざ）を営んでまいります。